



# 北海道・東北



9月12日号  
第2号

岩手県開催わんこそば



ラウンド

H24.8.25 (土) 岩手大学

6月のさくらんぼラウンドに続き、第2回の北海道・東北体育・保健体育ネットワーク研究会が岩手大学において開催されました。鹿児島、山形、宮城、秋田、岩手から、28名の参加がありました。小、中、高、大、行政それぞれの立場を越えて、「中学校1年生」になって「体育理論」の授業に参加しました。



### カレントトピックス

まずは、鹿屋体育大学佐藤豊先生から「体育理論の考え方、進め方」についてお話いただきました。「なぜ体育理論を重視したのか」「単元構造図の仕組み」「授業づくりのスケッチ」「発問の分類」など、指導要領（解説）に書かれていることの背景（思い）が感じ取られました。

体育理論は保健の授業を進化させ、保健の授業は体育理論を進化させるという言葉が印象的でした。

### 模擬授業

- 0 学級メンバー自己紹介「中学時代の所属部をジェスチャーで！」
- 1 マラソン大会「〇〇する人」をできるだけたくさん出してみよう
- 2 グループで出された答えを「行うこと・見ること・支えること」の3つに分類しよう
- 3 いろいろな関わり方を見たり、聞いたりしよう
  - ・ゲストティーチャー 東京マラソンの経験談
  - ・インタビュー スポーツの多様な関わり方
  - ・新聞記事、写真 など
- 4 まとめ 運動やスポーツには「行うこと」「見ること」「支えること」など多様な関わり方がある

先生はスポーツ健康課  
千田幸喜指導主事



### 生徒（参加者）の感想

模擬授業形式とはいえ、ゲストティーチャー、インタビュー、新聞記事など、多様な学習資料が提案されました。本時では「運動やスポーツには『行うこと』『見ること』『支えること』など多様な関わり方がある」ということをおさえればよく、あとは教師の工夫次第でいろいろな学習の仕方（広げ方、深め方）があることが分かりました。被災地から内陸に転校し、陸上大会で活躍した生徒の母親の感想などは、「支える」ことの喜びや生きがい、じんわり伝わってきました。

### 模擬授業検討会

岩手大学の清水将先生のコーディネートで「反省的実践家としての教師教育を意図した授業検討」を行いました。

「楽しい授業だった。」という雰囲気で行ったものの、より良い授業を創りあげるため、たくさんの改善意見が出されました。

小・中・高それぞれ違った視点からの意見が出され、一つの授業を通して小・中・高の連携が図られた充実した時間でした。これからの方向性の示唆もいただきました。

### 情報交換会も校種を越えて



次回は10月25日(金)札幌で。何ラウンドか楽しみです！